

## 板橋区経営革新諮問会議 第7回会議 会議録

1.開催日時 平成22年12月8日（水）午後6時00分から7時20分まで

2.開催場所 板橋区役所11階 第四委員会室

3.出席者

(1)委員 東田親司座長、岡田匡令副座長、木村良子委員、田崎百合繪委員、谷田大輔委員、田村和久委員、松崎八十雄委員、馬野耕至委員

(2)区側 副区長、政策経営部長、施設管理担当部長、総務部長、区民文化部長、産業経済部長、健康生きがい部長代理、保健所長、福祉部長、子ども家庭部長、資源環境部長、都市整備部長、土木部長、教育委員会事務局次長、政策企画課長、行政経営担当課長、財政課長、総務課長、人事課長

4. 第7回会議 会議録

○東田座長 板橋区経営革新諮問会議第7回の開会をさせていただきます。

それでは、最初にお手元に配付した資料につきまして、事務局からご説明をお願いします。

○行政経営担当課長 経営革新諮問会議の答申の構成（案）資料1、それとパブリックコメントの一覧資料2 資料については以上です。

○東田座長 本日のテーマにつきましては、最終答申案の検討でございます。

これにつきまして、事務局から資料の内容についてご説明をお願いいたします。

○行政経営担当課長 （資料1、資料2に基づき説明）

○東田座長 それでは、ただいまご説明いただきましたパブリックコメントでのご意見を踏まえまして、私どもの中間報告（案）につきまして、修正点、その他ご意見等がありましたら順次いただきたいと思っております。

（2）の区財政の現状のところ、基金の投入によって何とかとりあえずバランスを保ったという措置なので、この「基金」というのが3か所出てくるんですけども、同一の一つの基金ということでよろしいですか。

○行政経営担当課長 区には何種類かの基金がございます。財政調整基金とか、そのほか施設を建設するために準備している積み立てであるものを有効に活用したという、そういう内容でございます。

○東田座長 わかりよさからすれば、例えば4行目に、「最終的に137億円の巨額の何々基金等の投入により」とかというふうに、具体的に名前を出すと差し支えありませんでしょうか。

○行政経営担当課長 いえ、ございません。3種類使っていますね。一つは財政調整基金と、義務教育施設整備基金、あと公共施設整備基金、減債基金も投入していますので、4種類になります。

○東田座長 わかりよさという観点だけの話ですけども、差し支えなかったら入れたらいいのかなど。

○行政経営担当課長 入れてみます。

○東田座長 2番目の経営革新の基本的考え方の1行目の「社会経済情勢の変化は激しく」というのは、これは何かいつも言われている言葉で、あまり変わり映え

がしないんで、今の状況からすると「社外経済情勢の見通しは厳しく」とか、何かそういう厳しさを出したほうがいいんじゃないかなと。

3番目にまいりまして、革新計画の取り組みということで、(1)区行政の経営全体の質の向上、①体系的な経営マネジメント手法の検討、②組織風土の改革、③自治の基本的な仕組みの確立、とりあえずそこまであたりで何かお気づきのことがありましたら。

8ページの上から6行目ですが、「そのためにも、地方分権に対する区の取り組み状況や」というところは、ちょっとこの前の話で地方分権はちょっと狭いんで、「そのためにも、地方自治拡充に向けた区の取り組み状況や」というほうが広くていいんじゃないかなと思いました。

それでは、その次にいきまして、8ページの(2)内部管理業務の見直しで、①組織業務の適正化(内部統制)、②定数及び人事管理、③収入の確保と財政規律、④情報処理技術の活用、このあたりはいかがでしょうか。

では、またお気づきがありましたら戻ることにしまして、とりあえず進めまして、13ページの(3)事務状況の効率化と資源の有効活用、①公共サービスの民間開放、②公共施設配置の見直し、③類似・重複状況の整理・統廃合、④公益法人改革への対応、⑤事業の見直しということですが、私はパブリックコメントのご意見で、住民の参加とか協働とかということのご意見がありましたので、13ページの(3)①の公共サービスの民間開放というのは、ちょっとこれだけでは狭い感じがするので、これに住民との協働とか、「公共サービスの民間開放・住民との協働」というようなタイトルのほうがいいのではないかなと思います。書いている内容は住民との協働が含まれていますので、民間開放だけだと狭いかなという気がいたします。

同じように、私だけちょっと先に言わせていただきますと、15ページの②「公共施設の配置の見直し」というのが、何か今の時点になって言うのも変なのですけれども、「配置の見直し」というと、幾つかある、3つなら3つあるものを、置いている場所を見直して違うどこかにまた3つつくるというような、そういう意味合いの感じがする、ここで書いているのは置かれている場所の見直しではなくて、あり方の見直しという感じなんで、「配置」をとって、「公共施設の見直し」あるいは「公共施設のあり方の見直し」とか、そういうふうに直したほうが中身に合っているのではないかなと。

そして、次の16ページの取り組むべき課題のところは、2つだけ書いてあるのですが、もう一つ最初の丸として、「個別施設の見直し」というのをまず入れていただいて、それから2つ目は、テナント収入の確保というのがねらいではなくて、「テナント収入の確保など、施設の有効活用」というような、ひっくり返した表現のほうが広くていいのではないかなというふうに思いました。

そのほか皆さん、お気づきの点がありましたら、あるいは私の言ったことについてのご意見でも結構です。「配置」をとるとまずいですか。

○行政経営担当課長 いや、それは大丈夫です。

○東田座長 それでは、20ページの最後のまとめの4、着実な革新計画の取り組

みに向けてということですが、ここはいかがでしょうか。

4行目の「実施することが難しいと思われることも、」というのはちょっと読み返して見ると、何かできないことも寄せていただいたという感じがするんで、同じことなんですけれども、「実施することが容易ではないと思われることも、」というほうがいいのかなどと思ったんですが。

4番の題名は、「革新計画」より「経営革新計画」のほうが、わかりやすくないですか。

○行政経営担当課長 はい、わかりました。

○東田座長 それから、あわせてパブリックコメントの方、先ほど意見の説明と、お答えの説明がありましたけれども、何かお答えについてご意見がありましたら教えていただけたらと思います。

○馬野委員 4ページの「生産年齢人口」のところですか。パブリックコメントですけど、元気なまちにするためにも、食いとめるだけではなくて、ふやす施策をお願いしたいという意見が出ているわけで、私もそう思うんです。これはご意見を反映させたほうがいいんじゃないですか。この答えの考え方、これは我々委員会の立場から書いたものですよね。この答えを見ると難しい問題を避けているようなことになっちゃいますね。つまり「生産年齢人口を増やすことはなかなか難しい目標となることから、減少を食い止める施策が現実的との判断からの記述」と。こういった困難な目標を避けるんじゃないかと、あえてチャレンジすることをやったほうがいいんじゃないですか。だから「生産年齢人口減少を食い止め、増加を図る施策を展開することを提言しています」というほうが、何かはっきりするように、提言をそう変えるというのでいかがですか。

○東田座長 そうすると、具体的には、答申本文の11ページの③の「方向性」のところに、「生産年齢人口の減少を食い止めるための施策を展開し」となっていますので、馬野委員の意見は「食い止め、増加を図るための施策を展開していく」とつけ加える。

○馬野委員 それはだめなんです。「食い止め、増加を図る施策を展開する」。

○東田座長 はい。「図る施策を展開していく」などとちょっと直して、それから、次のページの取り組むべき課題のところ、「生産年齢人口の減少を食い止め、増加を図る施策の展開」というふうに2か所直して、本文中は、本文も直さないのだめでしょうかね。

○馬野委員 本文にもあります。

○東田座長 ありますね。

○馬野委員 「さらに」の後ろに「生産年齢人口」とあります。

○東田座長 下から6行目くらいで、「特に、生産年齢人口の減少を食い止め、増加を図るために」という修正案ということになりますけれども、委員の皆様いかがでしょうか。よろしいですか。

○東田座長 では、これらの答申はそのように直させてもらいまして、したがって、パブリックコメントの答えもそれに合わせて、難しい目標なのでやめましたと

いうトーンはやめていただいて、増やすことも努力しますというような趣旨の答えとしていただくと。

○松崎委員 32から35まで、8ページです。これは具体的な内容ということはかなり要求していますね、皆さん。これはこの後に経営革新計画の中でうたうから、何かそういうことを言ってあげたほうが親切なのかなということは書いてあるわけですね。どこで書いてあるかちょっと私もよくわからないので。

○岡田副座長 それぞれの行政の中で、今後の計画策定におろしていくというようなそういう考え方ですので、この報告の中でそこまで個別には書かないようです。書いてしまうと、「例えば」とやってしまうと問題が大きくなるので、むしろそこは一般化して表現していくというのがよろしいのではないかなという、それは半分ぐらい配慮しながら、そういう表現になる。

パブリックコメントはかなり具体的にご指摘いただいておりますけれども、だからといって1人のご意見が区民全体の意見を反映しているかというところとそうでもないわけですから、そういった点は、そういう意見もあることを踏まえながら、なお全体的な視点でやはりバランスよく考えていくということは、今後の視点であろうかと思うんです。そういう視点がここに示されていればよろしいのではないかなと。

○行政経営担当課長 32番、4番も入れましたように、35番のところ、先ほど私のほうで修正をすればということで、わかりやすい記載内容に修正しますということで、「変更案」のところを私飛していたんですけれども、ちょっと原文のところで削ったのが二重線で、網かけになっているところが今度新たに挿入して、こういった表現がいかがでしょうかというところで、直すのであればということでご提案させていただきます。こちらはいかがでございましょうか。

○松崎委員 何か頭か、後ろか、左右どっちかにすることをちょっと入っているとわかりやすいのかなというふうに思ったので、あえてちょっとお話ししたんです。

○東田座長 本文の答申の20ページのところですが、20ページの第2段落で今回の答申を受けて、区長が具体的な計画を策定することになって、その着実な実行を期待するものであるというふうに書いてありますので、一つ一つのことを入れることではないですけれども、例えばただいまのご意見をもし挿入するとすれば、ここを「パブリックコメントで提起されたご意見等も踏まえ」とか、そんなようなことをこの辺にちょっと書くというのも考えられますね。「具体的な計画を策定することになるが、その際パブリックコメントで提起されたご意見等も吟味の上」とか、「検討し」とか、「その着実な実行を期待するものである」というようなのが考えられますけれども、どんなものでしょうか。このままやれとはちょっと書けないので。「パブリックコメントで出た意見等も検討の上」とか。

○行政経営担当課長 ちょっと考えてみます。

○東田座長 例えば、「その際パブリックコメントで提起された意見も検討の上、着実な実行を期待するものである」とかというつながる。

○馬野委員 参考までにちょっと教えてほしいんですが、私、区内に住んでないものでわからないんですけれども、「りんりん号」というのは3つ出てきますけれ

ども、これは一人の方が意見を出しているわけじゃなくて、お三方が書いていらっしやるんですか。実態はこうなんですか。

○都市整備部長 乗車率は、1台平均今のところ7名程度ということです。1日24便ほど回っている。ですから、実態的にはこういった二、三名というような状態も生じているのかなというふうには思います。

○馬野委員 これは何を目的に、いつから始まったものですか。

○都市整備部長 今年の3月からで、交通要改善地区というのを私どもの調査で浮かび上がらせまして、その1カ所、赤塚・徳丸地域で、循環型のコミュニティバスということで、区が経費を出しつつバス事業者に委託と申しますか、協定を結んで委託するというような形でやっているというものでございます。

○東田座長 自己負担金は、1回100円とか。

○都市整備部長 運賃は210円で、普通のバス路線と同じになります。

○馬野委員 別にこのお答えでよろしいと思いますが、参考までにホタル施設のこれはご指摘のとおりでしょうか。

○資源環境部長 ただいまの、経費がかかっているのはこれだけ、これぐらい近くかかっているのは事実でございますが、23番につきましては誤解がありまして、年間で4日ぐらい開園しているというのはまるで違ひまして、ほとんど年間を通じて一般公開をしております。8日間だけ、夜のホタルが光るときは特別公開というのをやっております。ですから、年間を通じますと3万7,000の方が来館をされまして、夜の特別公開をやっている8日間はそのうち1万7,000人ほど、あと、ほかの昼間の年間を通じた方々の来館者が1万9,000人と、むしろそっちのほうが多い。こういった状況ですので、こちら辺は私どものPRもちょっと足りないのかもしれませんが、ちょっと誤解があるのかなという気がいたします。

○東田座長 この施設をこちらの区でやっておられる意義というのか、何かきっかけがあつてということなんでしょうか。

○資源環境部長 これはあえてやっている意義というのとは、実はホタルというのとは一つそれだけじゃなくて、色々な生物の多様性といひますか、そちらの環境教育のための施設なんですね。研究している大学も国内の10大学と、あとアメリカの2大学、こちらの研究者との交流もございませぬ。

そういったことも含めて、ホタルだけではなく、さまざまなホタルとの共生関係にある例えばハチであるとか、またはホタルのえさであるカワニナであるとか、そういった生物というのとは一種類だけでは生きられずに、異生物から、すべていろいろな食物から、色々なものが一つの生物の食物連鎖という中で生物多様性を形成していると、そういうのを目の当たりにできる環境教育施設というのがこの存在意義になっているというふうに考えております。

○東田座長 職員の方がマスコミが取り上げられたような、何か覚えているんですけれども、違ひましたか。

○資源環境部長 何かマスコミでとりあげられたのは、いつとき移設かなんかでホタルの幼虫がカビで死んでしまったことがあるんですね。それはマスコミに出た

と思いますけれども、あとその他につきましては、特に実際はこの運営は職員が3人、それとあとボランティアの方が10名ぐらい、それぞれこの運営に関与していただいて、それと、実際にホテルの成虫が光るとき、これをやる時には学生のボランティアさんだけではなくて、そこの町会だとかまたは商店街、そういった方々の区民との協働の中で、このホテルの特別公開というのをやっています。これが実態でございます。

○松崎委員 この事業を立ち上げるとき、何か反対とかそんなのはあったわけですか。何かちょっと感情的な文章に見えるので。

○資源環境部長 事業立ち上げのときはかなり前ですので、資源環境部に移ってきてからもう十何年たちますが、感情的な問題というのがあったというのは聞いてはいないんですけれども、たまたまホテルの幼虫のところで卵にカビが生えてしましまして、それで成虫になるのがならなくてかなり死んでしまった。そういったところで、生き物を大切に育てなければいけないのが、逆に生き物を殺したというところでは、これはいつときマスコミからの非難を浴びたというのは事実でございます。ただ、それ以後、卵にカビが生えないような微生物の関係というのは、これは茨城大の研究でわかったんですが、クロマルハナバチというものの出す分泌物が、一つのフェロモンの一種なんです、その一種の成分がカビの増殖を抑制すると、そういった形の共生関係があるというのがわかりまして、ホテルの卵にカビが生えることがなくなった、こういった事実、その微生物の関係をとらえて、アメリカのハーバード大学、そちらの研究者からも研究を求められたと、そういった状況です。

○馬野委員 そういったことは区民だよりのようなもので区民に知らせているんですか。

○資源環境部長 いえ、あまりにも専門的な内容ですので、それを広報でというわけにはいかないものですから、ホテルの施設の中に行けば、なるべく区民の方には、一般の方もわかりやすいように、こういうようなパネルボードにして展示はしてございます。

○馬野委員 専門的な話は要らないんですけども、要はこれをやっている意義を常に区民に周知するような努力は必要なんじゃないですか。

○資源環境部長 それは区のエコポリスセンターがこのホテル施設を管理しておりますので、そちらのほうのホームページにアクセスしていただければ、そこからホテルの施設の内容というものがわかるようになっています。

○馬野委員 始まってどのくらいになるんでしょうか。

○資源環境部長 平成5年度からホテル施設の公開は始めております。実際にできたのは平成元年ですね。旧高島平植物園の中でホテルの飼育を開始したということで、現在の場所に移ってきたのは平成5年ですね。

○東田座長 22番、23番の答えぶりにはこんな感じでよろしいですか。一般的なことしか書いていないですが。

○岡田副座長 こうしかない、書きようが。難しいのは、これは行政の効率化という言葉の中にホテルという自然のものを加えるのがいいのかという、また別の視

点も議論のあるところでしょうからね。だから効率化一辺倒で果たして人間らしい社会をつくれるのかという、そういう視点で見られるとそうではないということになるでしょうから、これはやはり板橋区の人や社会に対する哲学がどうであるかということ、こういうものは判断されると思います。

先ほど座長のほうから区民のパブリックコメントを受けて、それは検討しながらという、座長の検討は幅が非常に広い意味ですが、大方の人は検討するのはやってくれるのかという、そういうようにこう、検討と書いてあるのに、やらない検討をしたのかという意見をされるおそれがあるかなと思いつつも、区民の意見はそれぞれお聞きして、それは気に入らないから捨てるという意味じゃなくて、それも含めて判断してまいりますよという、そういう意味でまとめます。

○**田村委員** ちょっと前へ戻って恐縮ですけれども、情報処理技術の活用と12ページでございますよね。それで、「区の独自のシステムにこだわらず共通のパッケージ等の活用を推進し、経費の削減を図るべきである」というところがあるんですが、私が申し上げたことを採用していただけたのかなと思っています。このときに申し上げたのは、我々の業界では、自営のコンピューターシステムでどこの銀行もやっておりましたけれども、あるときにその共同センターをつくって共同利用して経費削減を図れたわけで、東京23区も各区の仕様ではなくて、そういったものをつくって共同利用したほうが経費削減になるんじゃないでしょうかということをお願いしました。それとこの「レガシーシステムからオープンシステム化へ」というのは、語句の説明が後ろのほうに出ているんですが、読んでも全く理解できないのですけど、これは同じようなことなんですか。私はコンピューターとかシステムのことは全く無知なんで、これを読んでも理解できないんですが。

○**行政経営担当課長** 別のことを書いたつもりです。共同システムということでは、13ページに「自治体クラウドなど政府の電子自治体推進に向けた最近の取り組みも踏まえ、新たな板橋区電子区役所推進計画を策定し、」と、このクラウドの部分も、ほかとの共同運営というところとは違いますけれども、特に自前でコンピューターを持つ必要はないと、そういったところを意識して発言された委員の方々のものをこういう形でまとめたところがございます。ですから、他の自治体との共同運営といったところもここら辺のところにも含まれてくるのかなというように考えています。

○**岡田副座長** 個別のソフトウェアを共同開発して利用するという効率の部分を中心に広がっていくという考え方と、ハードウェアそのもののコストダウンのためにクラウドを、クラウド自身も実際には、ソフトウェア自身はそのクラウドを提供するメーカーがクラウドコンピューターシステムを提供して、そこにみんな乗せると。そうするとそのメーカーが提供する行政ソフトウェアが出てくると、そこで共同管理ができますよと、そういうことになると思うんですね。

○**東田座長** 先ほどの最初のご質問の12ページの「レガシーシステムからオープンシステムへの検討を進めるとともに、区独自のシステムにこだわらず共通のパッケージ等」、別なことを言っていますか。

○行政経営担当課長 別です。

○東田座長 今日ご発言のなかった委員の方々、よろしいでしょうか。

それでは、今日出ましたご意見を踏まえまして修正させていただきたいと思えますけれども、あと1回の予定ですので、再度お集まりいただくのも恐縮なものですから、もしお許しいただければ、ただいまのご意見で出たものに基づきまして、修正する内容は私と岡田副座長とにお任せいただければと思えますけれども、ご一任していただけますでしょうか。

○全委員 よろしくお願ひします。

○東田座長 どうもありがとうございます。では、次回までに岡田副座長とご相談の上、事務局と一緒に作業をしたいと思っております。それでは、今後の日程につきましてよろしいですか。

○行政経営担当課長 それでは、次回は最終答申案の検討をお願いしたいというように思います。よろしくお願ひいたします。日程ですが、年明けの1月14日金曜日、4時からの1時間というところでお願ひしたいと思ひます。

○谷田委員 我々参加して、この諮問委員会でいろいろ検討させていただいて、これがこの最終答申をされて、その後どういうふうに出されていくというのか、その辺ちょっと伺いたいなと思っております。

○行政経営担当課長 この後ですが、同時並行的に今現在計画、こちらの経営革新計画という形で、実際の行動に移すためのところで計画書をつくってございます。現在、所管課のほうと調整を進めておりまして、実際に改革に取り組む課がございいますから、そちらのほうと調整を進めておりまして、その計画書ができるのが1月末ぐらいかなといったところで、あわせて予算にも反映できるものは反映していく。こちらの諮問会議は終了してしまいますので、委員の皆様には個々に計画書ができ上がった段階でお届けにあがるとともに、ご説明していきたい。その後は、その計画がどのように実行されたかといったところで、そちらについても計画期間の間ご報告を続けていきたい、それを実行していきたいというように考えております。

○谷田委員 一般企業でこういうようにやりましょうということで、発表されたケースを考えますと反映されないんですね。あんまり反映されない、わからないんですね。どこが直っているとか、どうされたかというのが非常にわかりにくいんですね。それで普通、来年度かと思うんですけども、2年ぐらいの比較と、今年こういうふうには数字できちつとこうやります、何があるからこの余分な予算を取ります、何をやめるから減りますというような、そういう計画になっているとか、そういう予定を出しておいていただくとか何か言えるというか、そういう感じがするんですけども。

これですと、今日の、今年のこういう方向でやりますとは言っているんですけども、どこまでが反映するのかというのが非常にわかりにくくて、意見を言っているつもりで、反映をされているんですけども、何かこれでうまくいくのかなというのか、何かその辺がやり方がもうちょっと順序が変わったほうがいいと言ったほうがいいのか、区長の思い、ナンバーワンの思いはどこまで反映されているとか、そ



ういうのもわかりにくくて、言葉上はきちんとなっているんで、また皆さん一生懸命やられているんで、それはそれでいいんだろうなというふうには思うんですけども、なかなか現実はどうなるのかなという。

企業ですとかなり厳しく予算立てして、その予算の中で何をするかまできっちりと入っていて、それで履行していくもんですから、こういう形で、皆さん、住民の方、区民の方がおられる中でやりますので、一遍になくしたり、始めたりということはなかなかできないと思うんですけども、年度年度で今年の特徴はこれだというのがもうちょっと明確になるといいのかなと。

何と言っているのかわからないんですけども、せっかく我々も出席してましたので、これでやっていただいて、後の報告を伺うと、どれがいきたかというのがもうちょっとわかるかわかんないんですけども、参加したイメージなんですけれども非常に難しいなという感じを持ちました。

○東田座長 委員のお答えの一つとして、経営革新計画というのがどのくらいの難しさの検討をやって、要するに一般的・抽象的な計画なのか、それとも具体的にりんりんバスはやめるとかやめないとか、そういうようなことまで含まれている内容なのかというあたりをちょっとご説明してくれれば。

○行政経営担当課長 代表的なもので申し上げますと、こちらのほうで課題といった形で網で書き込まれている部分がございますけれども、その分については各項目ごとに提言があった部分について、どういう形で事業化していったか、見直しを図っていったかということで、個別に書いて、それを年度計画の中で3年、5年のスパンで考えてございますけれども、1年度で予算は検討して、2年度目には、もしくは半年後の検討もございますけれども、そういった形でどこから着手して、どれだけの効果を生むということで、最初と最後のその比較ということで、こちらの答申の中にも盛り込まれてございますので、そういった形でどう変わったかといったところはあらわしていきたいなというふうに考えています。

個別の具体的に、事業ごとにとというようなものもございまして、新たに取り組むべき、例えば人材の育成だとか、そういったところについては新たな取り組みもございまして、そういうところでわかりやすくお示していきたいなというふうにて考えております。

○岡田副座長 谷田委員のご心配は、むしろ役所のほうは書いたらとにかくやるんです。

○谷田委員 いや、企業も書いたらやる。

○岡田副座長 書くと同時に、この環境変化に適應できているという企業はあるんですけども、役所のほうは一たんロードマップを引いて工程表をつくれれば、それで突っ走っていくというところが実際にある。といいながら、年度予算ですので、やっぱり年度ベースで事業が組み立てられると。だから、中期・長期の視点をバックグラウンドに置きながら、単年度の計画に反映させるという、そういう形には進められるので、毎年御破算で願いましてをやっているわけでもないの。

ここで諮問委員会でも何回か出ているので、多分、田村委員からも言われたんで

すけれども、企業の場合ですと吸収合併とか、そういう感じなんですね。もう思い切って2つ、3つのと合併しちゃう、吸収しちゃうと言えば、それだけでぐっと安く経費も下がるんですけれども、何かそこはやらないんですよ。

23区、特別区と言われている意味では、基礎的自治体でありながら制限を受けているという、そういうことについても、実際区民の方にご理解いただいていない部分もあろうかと思えますね、税制のあり方一つにしても。それから、先ほどの生産人口、板橋区をふやすぞと言ったら減らされる区も出てくるかもしれない。そこでのある程度の利益相反が起るという面もある。各道府県から人を入れ込むというのは、ここはいいけれども、減らされる方がなお深刻な問題、過疎化の問題というのが出てくるわけですので、そうなると何が一番の正解かといったときのありようをもう少し真剣に考えなきゃいけない。

○谷田委員 私、お答えがほしいわけじゃなくて、今後の方向としてはもっと違うやり方があるんじゃないかですかと感じましたということでお伝えした。

○岡田副座長 こちらは大変ありがたいことだし、そのような感じを持っていることを行政もよく考えていただくということが大事です。

○東田座長 経営革新計画をつくられる段階で、どこまでの範囲かわかりませんが、個別の事務事業のあり方についても、各担当課で検討していただいて、その結果を踏まえて、一般的な表現をどうするかというようなことになるんじゃないでしょうか。何かははっきり言えば、りんりんバスとかホテルだというものをどうするかというご検討をされると考えてよろしいんでしょうか。

○都市整備部長 スタートしたのは先ほど言ったように3月なんですけれども、これは一応実験運行ということでスタートさせていただいてまして、3か年の中で検証した上で本格運行をしよう、しないということを決めていこうというふうに考えております。今、利用状況もそういうふうなあんばいですから、利用者にアンケートをとるなりしまして、ルートの変更ですとか、そういったことも考えながら3か年で実験運行して、それでも利用者が少ないということならば、それは本格運行しないでやめましょうということも考えていくわけで、今りんりん号をやることになるのか、やめるのかという話ではありませんので、ちょっと実験運行とか、その3か年という話は私も説明しませんでしたので、それをちょっとこの機会にご承知おきいただければと思います。

○東田座長 ここでどうこうするんじゃないくて、そういう事務事業レベルのことも各所管課で検討していただいた上で、区全体の経営計画というのとはできるんじゃないですか。

○行政経営担当課長 そのような形になります。お手元にあります資料の14のところ、前回の第2次経営刷新計画では、具体的に事業を挙げまして、その改革の基本的な方向性、それと効果、それに年度ごとの取り組みの内容といったものを書いて、その年度ごとの職員の削減とか効果額だとか、そういう目標とすべきものをあらわしたものを表にいたしまして、それに基づいて進行管理していくと。進行管理したものについて効果額がどうなるのか、どのような効果が生まれたのか、今回

の場合は削減だけではなくて、行政経営の品質の向上といったものがありますので、その指標については今後検討させていただきましても、その部分についてはできるだけわかりやすく表していきたいというふうに考えているわけです。個別の事業についても表していくという形になります。

○東田座長 それでは、そのほかのご意見はよろしいでしょうか。ご協力いただきましてありがとうございました。